

ISO/TC225 WG1 第9回会議参加報告

ISO/TC225 国内委員会 委員長 一ノ瀬 裕幸
同委員 浅野 怜祐

1. 国際会議の概要

ISO20252 の改訂 (ISO26362 の組込みを含む) を担当する WG1 会議 (通算 9 回目) が、アムステルダムで開催された。議長の Mr. Don Ambrose (カナダ) は家庭の事情により参加できず、代わりに Ms. Debrah Harding (イギリス) が議長を勤めた。

また、参加予定であったオーストラリアの代表がインフルエンザのため急遽欠席となった。

会議初日の冒頭に、オランダを代表して Mr. Finn Raben (ESOMAR 事務局長) から開会の挨拶をいただいた。今回は 1 日目のレセプションより、中国のメンバーも参加した (中国からの参加は 2008 年のシドニー以来 9 年ぶり)。

<TC225/WG1>

日 時： 2017 年 9 月 14 日 (木) ~16 日 (土)

会議名： ISO/TC225 WG1 第 9 回国際会議

参加者： WG1 メンバー (7 カ国+2 オブザーバー機関、計 15 名参加)

Acting Chairman: Ms. Debrah Harding (イギリス MRS 事務局長)

Secretary: Ms. Natalia Oritz de Zarate (スペイン UNE 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、カナダ(議長国：2)、イギリス(2)、オランダ(2)、オーストリア/ドイツ*1(1)、中国(1)、スペイン (2)

ESOMAR (オブザーバー：1)、ARIA*2 (オブザーバー：2)

場 所： アムステルダム オランダ市場調査協会 (MOA) 会議室

※1) オーストリアとドイツは、1つの代表国としてカウント (以下同じ)

※2) ARIA は南北アメリカ大陸を代表する組織であるが、実質的にはアメリカである

2. 討議/決定事項

(1) ISO20252 の改訂に関する各国コメントの検討を終了

前回の修正版ドラフトに対し、各国から出されたコメント (修正意見) について検討・確認が行われた。CD 化に向けてワーディングや文章の校正等の議論を重ねたが、ISO19731 からの引用などを含む大幅な修正が必要な部分が散見されたため、今回の確認事項に即して再編集に時間をかけることが決められた。

また、来年 5 月に施行される GDPR のガイドライン発行 (年内と見込まれる) をにらみ、用語定義の確認や対処方針を盛り込む必要があるとの議論がなされた。次回会合までには、それらの確認や修正が発生するものと考えられる。

前回に引き続き日本からのコメントもその多くが採用されたが、一部には日本の解釈・慣習になじまないところがあり、翻訳の仕方や日本版のガイドラインで対処を考える等の対策を講ずべき箇所がいくつか残されている。それらに関しては最終文案確定後に意図を再確認

し、翻訳等を行う必要がある。

その他、修正点の詳細はここでは記述しないが、英語を母国語とするメンバーたちによる細かい言い回しや単語の修正も多々行われた。

(2) 規格表題の改訂

最終日には、ISO20252 の表題である「Market, opinion and social research」に、「insight と analytics を追加したい」との提案がなされた。これは、ESOMAR Code の改訂をはじめとする近年の市場調査業界の取り組みを反映したものと言える。

(3) アムステルダムドラフトに基づき、引き続きグループ作業を行う

引き続き全体の文案編集や文法的・校正的なチェックを行うため、指名を受けた各グループがそれらの詳細を検討し、次回メキシコシティ会議（2月末）にてCD（委員会ドラフト）化を目指す。

- ・ カナダとイギリスが Annex E と A の整合・再編集を行う
- ・ ARIA より 4.2.5（Data protection）の文面を提案
- ・ ARIA とイギリスにより 4.4 と 4.2.5 の簡略化と完成版の作成
- ・ 事務局が Annex D に ISO19731 の 5.1～6.5 までのコピーを行い、オランダと ESOMAR で Annex D 全体の見直し（説明文を含む）をかける

3. 今後の作業スケジュール

- ① 10月27日までに今回会議の議論に基づいたドラフト改訂版をCD（案）としてとりまとめ、Pメンバー国に回覧
- ② 11月～、CD投票を行う（2ヶ月間）
- ③ 2018年1月5日頃までに各国よりコメントを受け付け、Pメンバー国に回覧
- ④ 約6週間の検討期間を確保（再度、意見集約）
- ⑤ 2018年2月28日（水）～3月2日（金）にて、WG1&TC225総会をメキシコシティで開催し、スムーズに進めばメキシコ会議での結論をDISとする
- ⑥ 5月頃にDIS投票（3ヶ月間）+中央事務局によるチェックを行う
- ⑦ 10月のWG1&TC225総会（場所は未定）にて検討・修正と「FDISのスキップ」を決議し、最短で2019年3月頃に発行（発行承認に5ヶ月を要する）

4. 会議の状況と関連情報

(1) ISO19731（Web Analyses）に対する取り組みはまだこれから

- ・ 前々回まで議論が行われていたISO19731が、6月によりやく発行。各国の第三者認証に対する取り組み状況を確認した。オランダとスペインがISO20252と同様のスキームで認証準備を開始しているが、他国は現時点ではそれほど力が入っておらず、今後の動向を引き続きチェックしていく。
- ・ なお、オランダでは「ISO19731は調査会社ではない企業向け」との理解があり、ビッグデータ分析等を手掛ける企業を対象とした拡張を考えているとのことであった。

(2) ISO20252 改訂については標準検討期間を確保

- ・ 今回のアムステルダム会議の結果によってはCD投票のスキップ決定もありうるかと思われたが、GDPRへの対応の必要性や大幅な引用・再編集のため、標準的な検討期間を確保の上、次回メキシコシティでの決議まで持越しとされた。できれば早期に改訂を進めたいところではあるものの、結果的には順当な措置と思われる。

(3) 中国が久々に参加

- ・ 長く動向が不明であった中国が9年ぶりに参加。ただし今回の代表者は政府機関の職員で、特段のコメントも用意されておらず、業界の意向はよくわからなかった。ISO20252の認証取得社は、現在4社とのことであった。

<TC225/WG1 アムステルダム会議の参加者>

(注：左上枠内は遅れて参加した中国の代表)



以上